

2016/5/25

## 柏の景気情報（平成28年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成28年4月分）

○ 調査期間 : 平成28年4月21日 ~ 平成28年5月9日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	68	43.6%
建設	44	17	38.6%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	24	55.8%
サービス	36	11	30.6%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成28年4月の調査結果のポイント】

### ◀業況DIは横ばい推移。先行きは不透明感から慎重な見方が続く▶

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.4(前月水準▲25.6)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.8(同▲4.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0(同▲15.3)、製造業▲37.5(同▲44.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲54.1(同▲34.6)である。

【建設業】からは、「電気工事は現状維持で小規模のものが多く。お客様にはLED照明や省電力製品を提案している。」(電気工事業)、「新築工事に関しては中小と大手ハウスメーカーとの間で棟数に格差が出ている。」(その他の職別工事業)、「畳工事の一般のお客様からの注文が増加。畳縁なし畳の注文も増加している。畳素材の小物や畳縁バッグが好調。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高の影響により売上が減少。」(織物業)、「年度末駆け込みがあったため、売上高は前年同月と比べて減少したが、単月で見れば大きく貢献した。今年度は不透明感が相変わらず続いていたが、ここに来てようやく設備投資に動きが見えてきた。」(その他の機械・同部品製造業)、「3月入社した社員・パートが仕事内容に慣れてきたため、残業時間の減少・生産性が上昇している。」(その他の金属製品製造業)、「仕事の内容を既成概念に囚われず、アナログとデジタルをマッチングさせ、マルチ的な発想でクリアしていくという意識転換を行ったことにより、業況が好転した。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「4月中旬以降、気温上昇により衣料品が好調に推移、特に肌着と婦人衣料が伸長。食料品は飲料などが好調も、生鮮3品は昨年をやや下回る。基本となる野菜、豚、鶏肉が低迷で贅沢品の牛肉・果物などは売上好調となった。日用品は好調に推移も3月度好調であった寝具関連は売上低迷となる。」(その他の各種商品小売業)、「4月に開業した大型ショッピングセンターの影響を鑑み、一時的な売上減を想定している。」(その他の各種商品小売業)、「最近の産地情勢は気温差が大きく、生育不足や出荷減少傾向から高値取引となっている。大型連休に向け卸売市場としてしっかりと需要と供給に対応し、消費者に安全・安心を届けたい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要では、北海道新幹線開業の盛り上がりは北陸ほどではない。北陸新幹線はいまでも勢いは衰えていない。NHK大河ドラマの影響で信州方面の問い合わせが増加している。マイナス金利により旅行積み立ての申し込みが増加。法人需要では秋の職場旅行の引き合いが活発化している。」(旅行業)、「金利が安くなっているため、収益用に不動産を購入したいという需要が広がっている。」(不動産管理業)、「つくばエクスプレスの通勤時間帯の乗車人数が年々増加している。沿線の開発の進捗状況にTXの輸送能力が迅速に対応出来ていく事と、バス路線網の拡充が今後の地域発展に欠かすことの出来ない要素と考えている。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎熊本地震

各業種より、「熊本地震による影響は今のところ実感は無いが、徐々に耐震についての問い合わせが増えるかもしれない。」(一般土木建築工事業)、「災害があるとイベント等が減り、自粛ムードが広がるため、売上は必ず減少する傾向にある。」(印刷業)、「熊本地震の影響で仕入れが出来ない材料があったが、代替で何とか対応している。」(菓子・パン小売業)、「全国からの仕入を行っているため、熊本地震により集荷に影響して苦慮している部分がある。」(食料・飲料卸売業)、「熊本地震により九州方面の団体旅行は数ヶ月先も含め当面見直しになっている状況である。」(旅行業)、「熊本地震の影響により不動産の購入についてお客様が慎重になっている。」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎大型ショッピングセンター開業

卸小売業より、「大型ショッピングセンターの開業による影響は4月現在ではほとんど受けていない(その他の各種商品小売業)」、「大型店の出店による影響を鑑み、一時的な売上減を想定している。」(その他の各種商品小売業)、「柏全体で見れば良い話題だと思う。このオープン景気後も以前より上向きを継続させることが課題。」(その他の各種商品小売業)、「大型店の出店により、競争激化が見込まれる。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎競争激化

各業種より、「2016年の柏のスーパーマーケット競争は20年前の頃から最も激化している。今後更なる差別化が必要である。」(各種食料品小売業)、「今後柏駅前のスーパー開店で激戦が予想される。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲ 30.8	▲ 21.7	▲ 27.7	▲ 52.0	▲ 13.3
12月	▲ 28.7	▲ 12.5	▲ 41.1	▲ 44.0	▲ 14.2
1月	▲ 29.7	▲ 12.5	▲ 38.8	▲ 53.5	±0.0
2月	▲ 26.3	▲ 13.6	▲ 50.0	▲ 40.0	△ 7.6
3月	▲ 25.6	▲ 4.7	▲ 44.4	▲ 34.6	▲ 15.3
4月	▲ 26.4	△ 5.8	▲ 37.5	▲ 54.1	±0.0
見通し	▲ 20.5	±0.0	▲ 18.7	▲ 41.6	▲ 9.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.4(前月水準▲25.6)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。

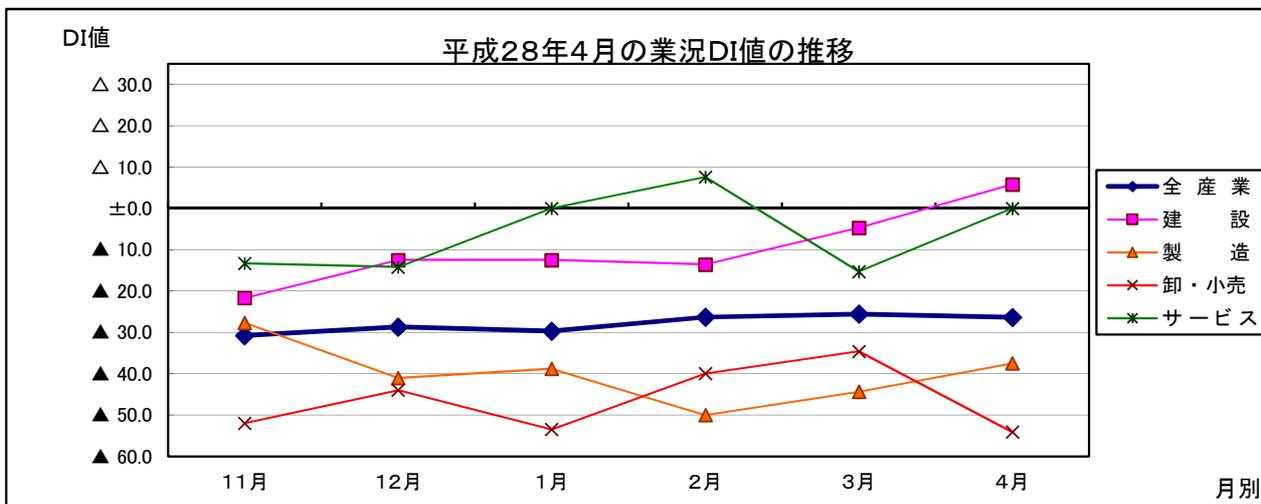
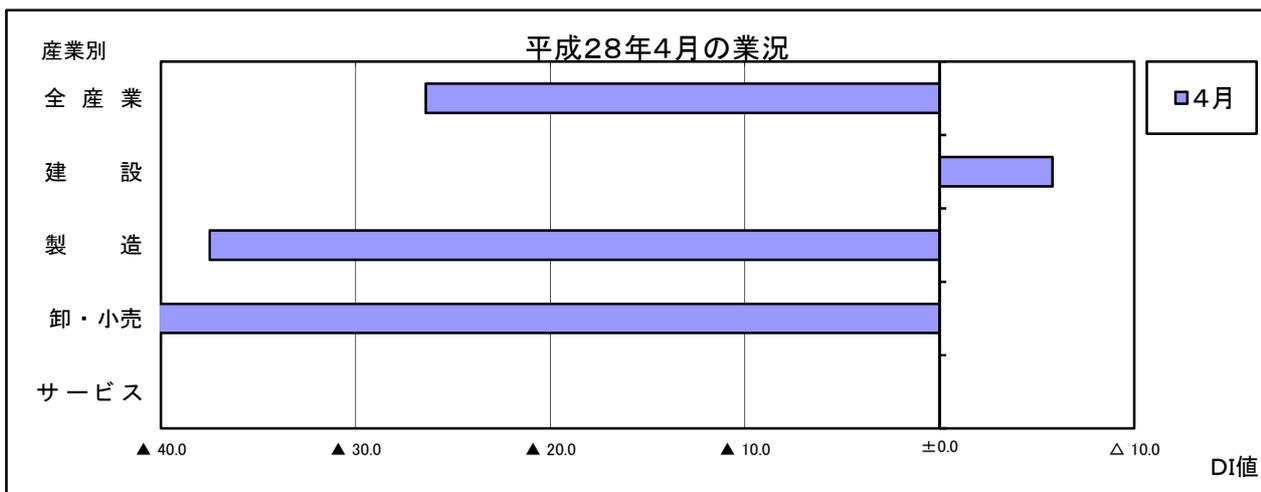
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.8(同▲4.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0(同▲15.3)、製造業▲37.5(同▲44.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲54.1(同▲34.6)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.5(前月水準▲23.0)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲33.3)、サービス業▲9.0(同▲23.0)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲41.6(同▲34.6)である。

平成28年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲30.8	▲28.7	▲29.7	▲26.3	▲25.6	▲26.4	▲20.5(▲23.0)
建設	▲21.7	▲12.5	▲12.5	▲13.6	▲4.7	△5.8	±0.0(±0.0)
製造	▲27.7	▲41.1	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲37.5	▲18.7(▲33.3)
卸・小売	▲52.0	▲44.0	▲53.5	▲40.0	▲34.6	▲54.1	▲41.6(▲34.6)
サービス	▲13.3	▲14.2	±0.0	△7.6	▲15.3	±0.0	▲9.0(▲23.0)



【平成28年4月の売上についての状況】

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.5(同▲14.1)であり、マイナス幅が6.4ポイント拡大した。

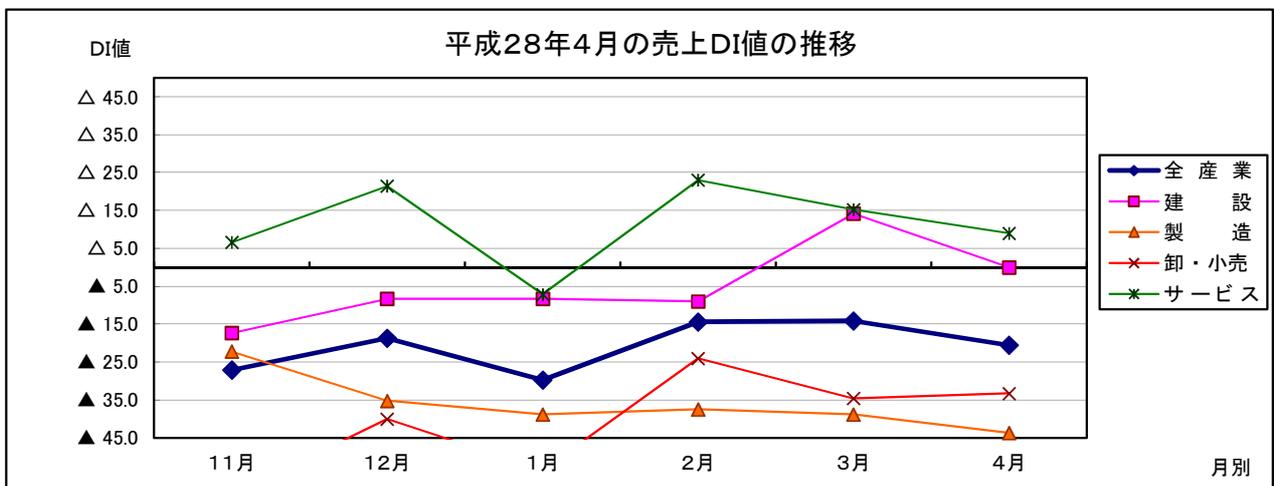
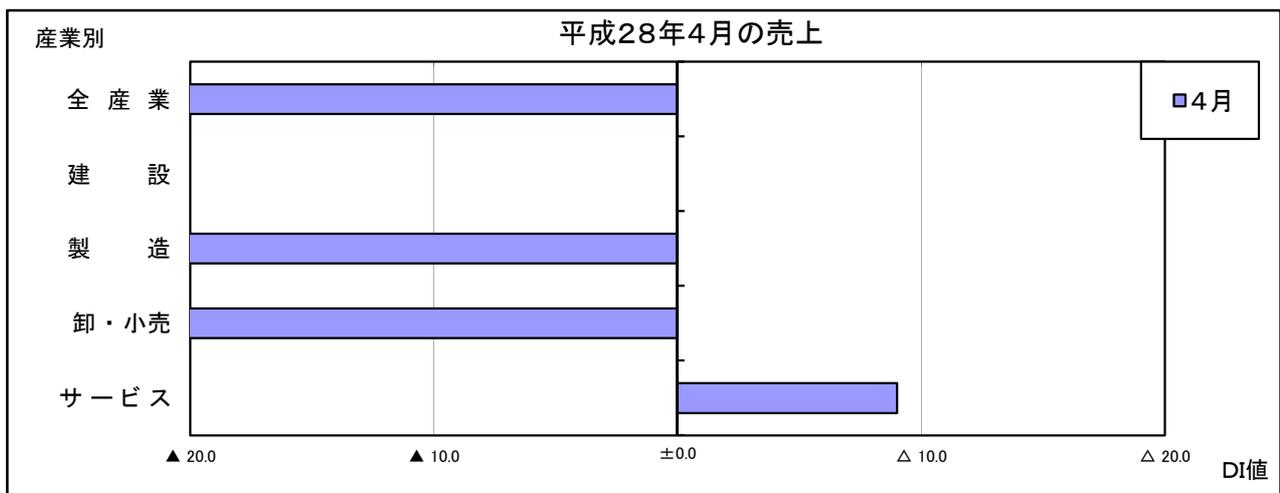
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は卸小売業▲33.3(同▲34.6)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0(同△14.2)、サービス業△9.0(同△15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲43.7(同▲38.8)である。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.2(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲22.2)、卸小売業▲29.1(同▲30.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲9.0(同±0.0)、建設業△4.7(同△11.7)である。

平成28年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲27.1	▲18.7	▲29.7	▲14.4	▲14.1	▲20.5	▲13.2(▲14.1)
建設	▲17.3	▲8.3	▲8.3	▲9.0	△14.2	±0.0	△11.7(△4.7)
製造	▲22.2	▲35.2	▲38.8	▲37.5	▲38.8	▲43.7	▲18.7(▲22.2)
卸・小売	▲60.0	▲40.0	▲53.5	▲24.0	▲34.6	▲33.3	▲29.1(▲30.7)
サービス	△6.6	△21.4	▲7.1	△23.0	△15.3	△9.0	▲9.0(±0.0)



【平成28年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.0(前月水準▲20.5)となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大した。

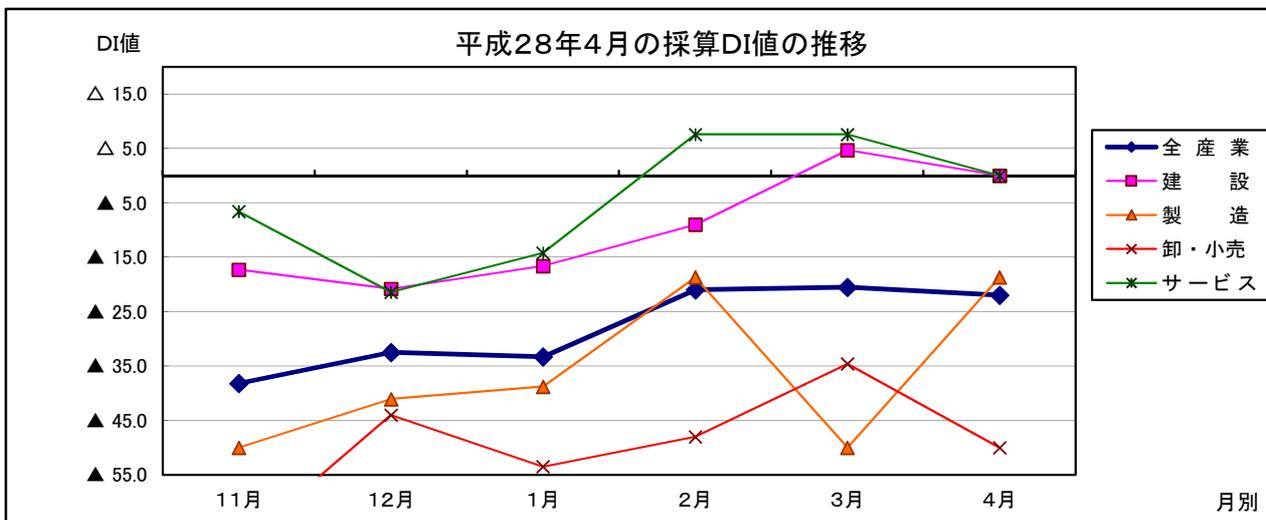
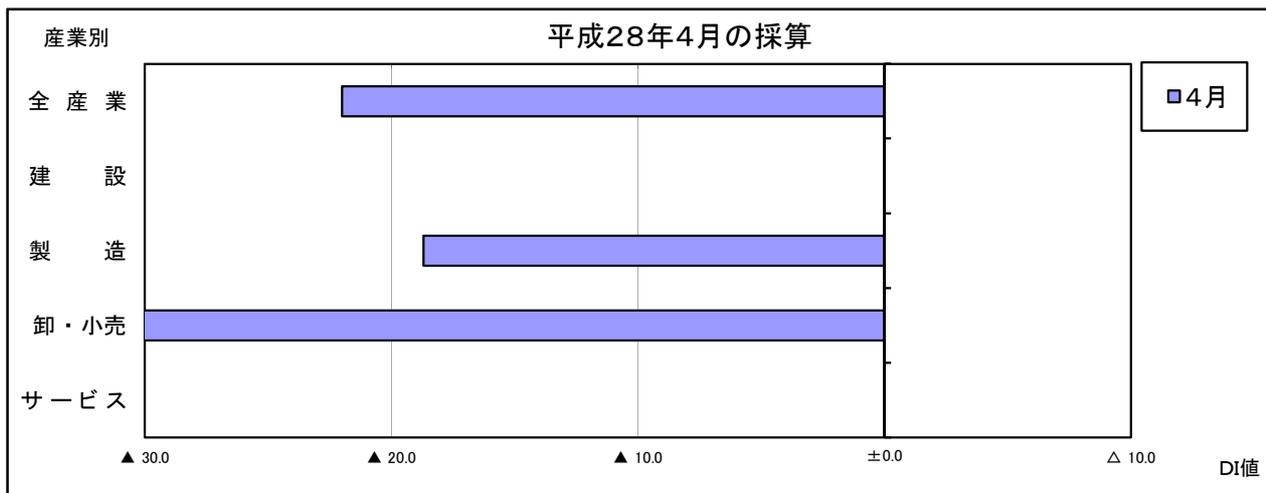
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲18.7(同▲50.0)であり、マイナス幅が31.3ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0(同△7.6)、建設業±0(同△4.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲50.0(同▲34.6)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.9(前月水準▲29.4)であり、マイナス幅が1.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0(同▲15.3)、建設業▲5.8(同▲19.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.8(同▲38.4)、製造業▲43.7(同▲38.8)である。

平成28年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 11月	12月	1月	平成28年 2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲38.2	▲32.5	▲33.3	▲21.0	▲20.5	▲22.0	▲27.9(▲29.4)
建設	▲17.3	▲20.8	▲16.6	▲9.0	△4.7	±0.0	▲5.8(▲19.0)
製造	▲50.0	▲41.1	▲38.8	▲18.7	▲50.0	▲18.7	▲43.7(▲38.8)
卸・小売	▲68.0	▲44.0	▲53.5	▲48.0	▲34.6	▲50.0	▲45.8(▲38.4)
サービス	▲6.6	▲21.4	▲14.2	△7.6	△7.6	±0.0	±0.0(▲15.3)



【平成28年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.4(前月水準▲16.6)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。

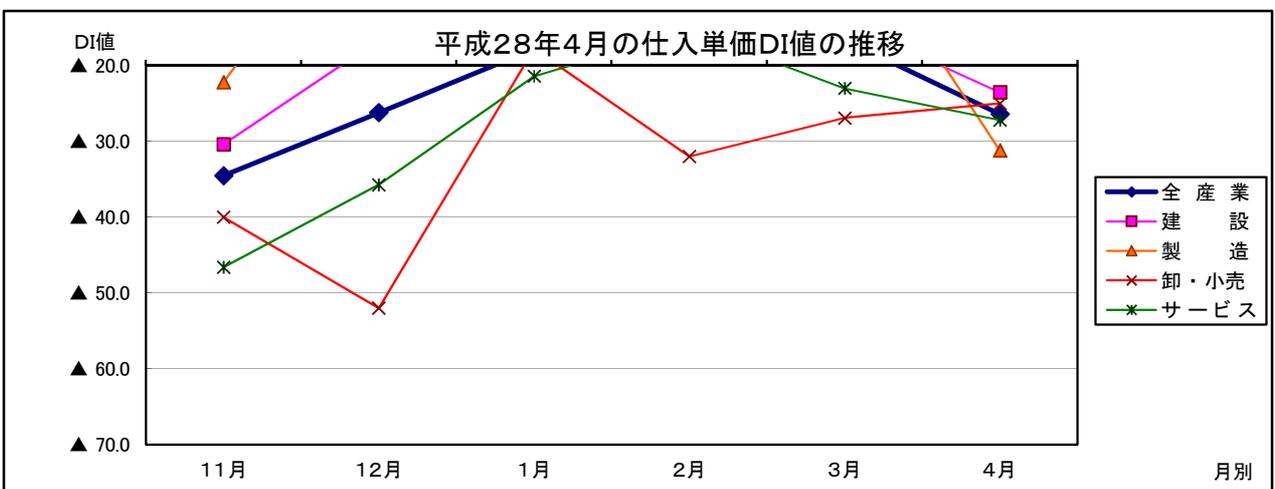
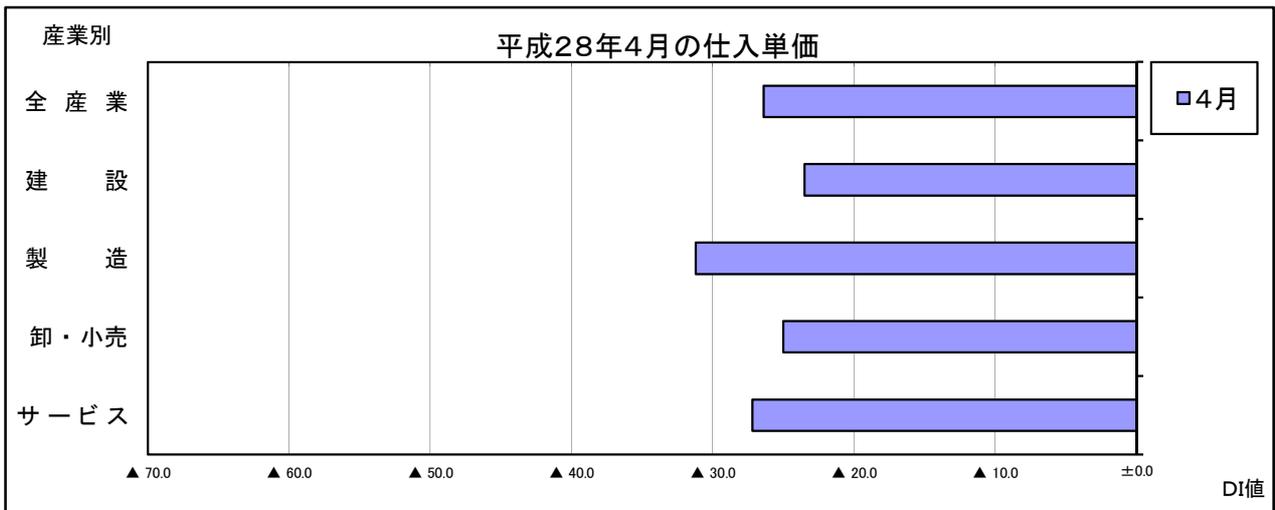
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲25.0(同▲26.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同±0.0)、建設業▲23.5(同▲14.2)、サービス業▲27.2(同▲23.0)であり、特に製造業は▲31.2ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.6(前月水準▲21.7)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲16.6)、建設業▲11.7(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.8(同▲26.9)、サービス業▲27.2(同▲30.7)である。

平成28年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲34.5	▲26.2	▲17.8	▲18.4	▲16.6	▲26.4	▲17.6(▲21.7)
建設	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲18.1	▲14.2	▲23.5	▲11.7(▲14.2)
製造	▲22.2	△5.8	▲16.6	±0.0	±0.0	▲31.2	▲12.5(▲16.6)
卸・小売	▲40.0	▲52.0	▲17.8	▲32.0	▲26.9	▲25.0	▲20.8(▲26.9)
サービス	▲46.6	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲23.0	▲27.2	▲27.2(▲30.7)



【平成28年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△7.3(前月水準△15.3)となり、プラス幅が8.0ポイント縮小した。

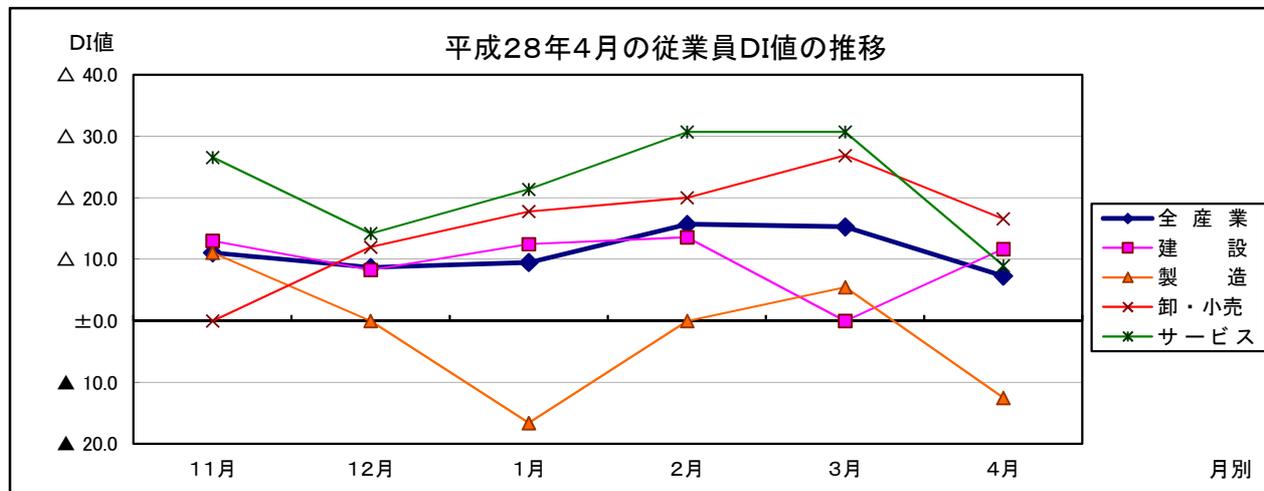
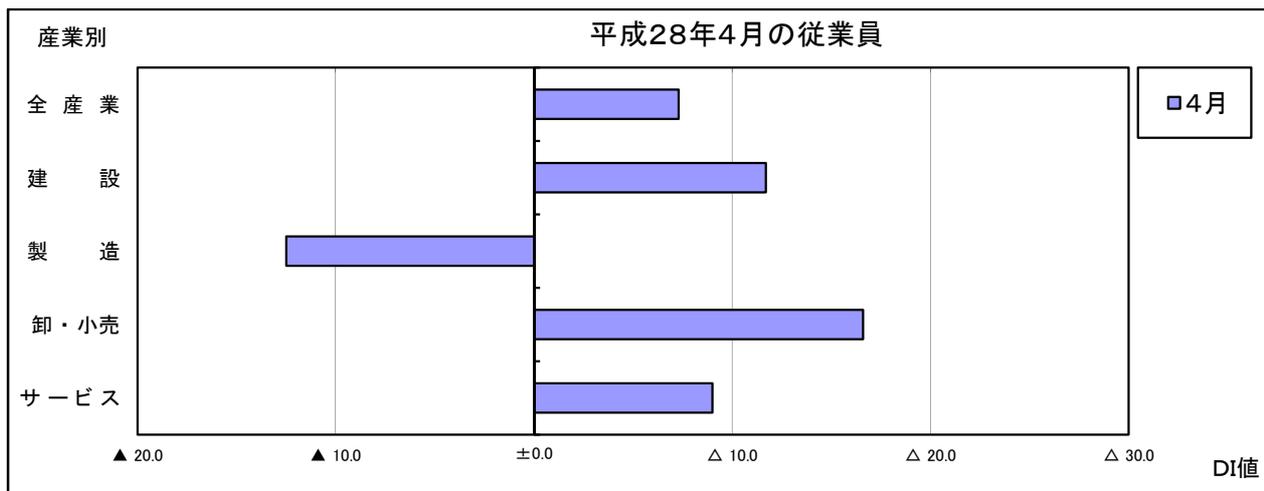
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△11.7(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△9.0(同△30.7)、卸小売業△16.6(同△26.9)で、特にサービス業はプラス幅が▲21.7ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は製造業▲12.5(同△5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△13.2(前月水準△16.6)であり、プラス幅が3.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△23.5(同△4.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△9.0(同△30.7)、卸小売業△26.9(同△20.8)で、特にサービス業はプラス幅が▲21.7ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.2(同△5.5)である。

平成28年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△11.1	△8.7	△9.5	△15.7	△15.3	△7.3	△13.2(△16.6)
建設	△13.0	△8.3	△12.5	△13.6	±0.0	△11.7	△23.5(△4.7)
製造	△11.1	±0.0	▲16.6	±0.0	△5.5	▲12.5	▲6.2(△5.5)
卸・小売	±0.0	△12.0	△17.8	△20.0	△26.9	△16.6	△20.8(△26.9)
サービス	△26.6	△14.2	△21.4	△30.7	△30.7	△9.0	△9.0(△30.7)



【平成28年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7. 3(前月水準▲1. 2)となり、マイナス幅が6. 1ポイント拡大した。

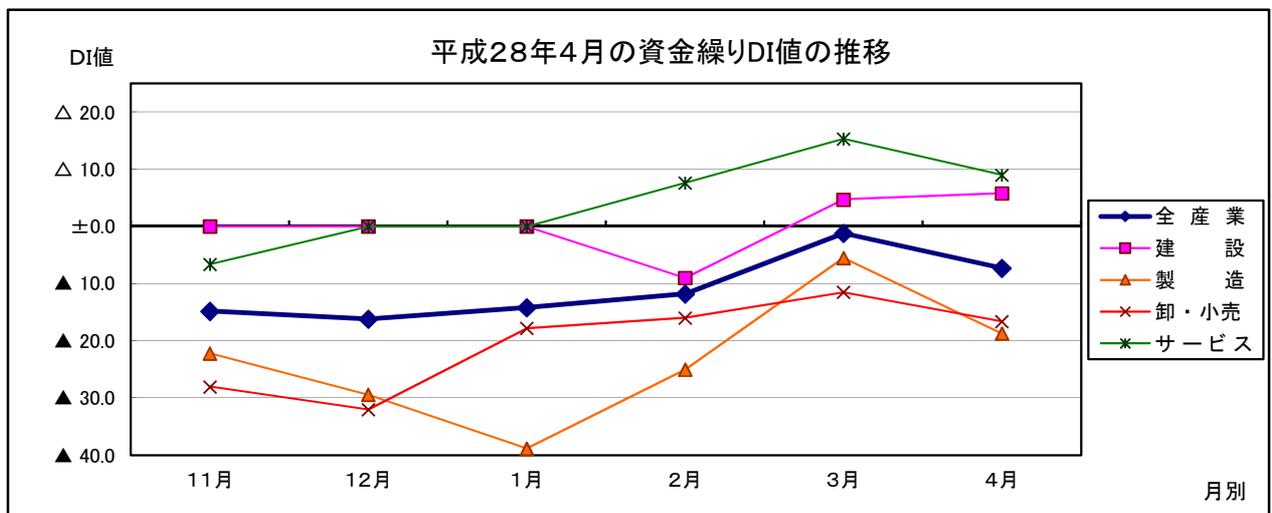
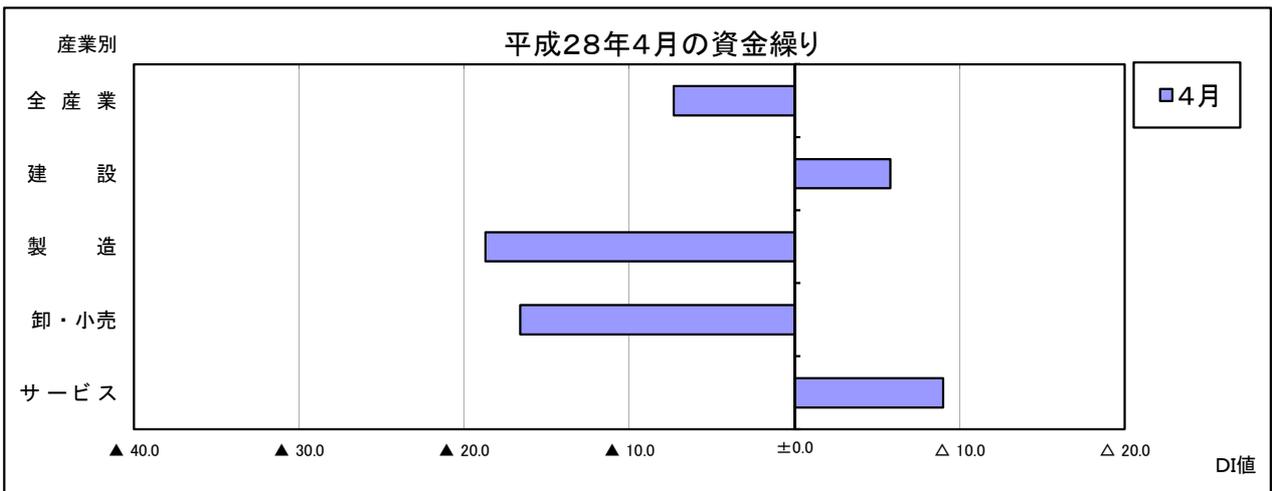
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△5. 8(同△4. 7)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△9. 0(同△15. 3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲18. 7(同▲5. 5)、卸小売業▲16. 6(同▲11. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8. 8(前月水準▲5. 1)となり、マイナス幅が3. 7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する業種は、幅が大きい順に、建設業△17. 6(同△4. 7)、サービス業△9. 0(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25. 0(同▲5. 5)、卸小売業▲25. 0(同▲15. 3)である。

平成28年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲14.8	▲16.2	▲14.2	▲11.8	▲1.2	▲7.3	▲8.8(▲5.1)
建設	±0.0	±0.0	±0.0	▲9.0	△4.7	△5.8	△17.6(△4.7)
製造	▲22.2	▲29.4	▲38.8	▲25.0	▲5.5	▲18.7	▲25.0(▲5.5)
卸・小売	▲28.0	▲32.0	▲17.8	▲16.0	▲11.5	▲16.6	▲25.0(▲15.3)
サービス	▲6.6	±0.0	±0.0	△7.6	△15.3	△9.0	△9.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.5	▲ 13.2	▲ 22.0	▲ 27.9	▲ 26.4	▲ 17.6	△ 7.3	△ 13.2
建設	±0.0	△ 11.7	±0.0	▲ 5.8	▲ 23.5	▲ 11.7	△ 11.7	△ 23.5
製造	▲ 43.7	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 43.7	▲ 31.2	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 6.2
卸・小売	▲ 33.3	▲ 29.1	▲ 50.0	▲ 45.8	▲ 25.0	▲ 20.8	△ 16.6	△ 20.8
サービス	△ 9.0	▲ 9.0	±0.0	±0.0	▲ 27.2	▲ 27.2	△ 9.0	△ 9.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.4	▲ 20.5	▲ 7.3	▲ 8.8
建設	△ 5.8	±0.0	△ 5.8	△ 17.6
製造	▲ 37.5	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 25.0
卸・小売	▲ 54.1	▲ 41.6	▲ 16.6	▲ 25.0
サービス	±0.0	▲ 9.0	△ 9.0	△ 9.0

【平成28年4月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	熊本地震による影響は実感無し。徐々に需要増加となる可能性に期待。	熊本地震	一般土木建築工事業
	工事は現状維持。小規模な工事が多い。お客様にはLED証明や省電力製品を提案している。	受注現状維持 省電力 LED製品	電気工事業
	畳小物&畳縁バッグが好調。畳工事の一般顧客からの注文が増加。琉球表でなくても畳縁なし畳の注文も増加。	畳小物好調 畳工事受注増加(個人)	内装工事業
	新築に関して大手ハウスメーカーにおいて棟数に格差が出ている。	新築工事減少	その他の職別工事業
製造業	円高により売上に影響。	円高 売上減少	織物業
	印刷業は災害(熊本地震)があるとイベント等が減り、自粛ムードが広がるため、売上は必ず減少する傾向にある。	熊本地震 売上減少 自粛ムード	印刷業
	年度末駆け込みがあったため、売上高は前年同月と比べて減少したが、単月で見れば大きく貢献した。今年度は不透明感が相変わらず続いていたが、ここにきてようやく設備投資に動きが見えてきた。	駆け込み需要 先行き不安 不透明感 設備投資 売上減少	その他の機械・同部品製造業
	3月入社の子社員・パートが仕事内容に慣れてきたため、残業時間の減少・生産性が上昇している。	人員増加 新規採用 生産性向上 残業時間減少	その他の金属製品製造業
	業況の好転は仕事の内容を既成概念に囚われず、アナログとデジタルをマッチングさせマルチ的な発想でクリアしていく意識転換によるものと思われる。	業況好転	印刷業
卸小売	4月中旬以降、気温上昇により衣料品が好調に推移、特に肌着と婦人衣料が伸長。食料品は飲料などが好調も、生鮮3品は昨年をやや下回る。基本となる野菜、豚、鶏肉が低迷で贅沢品の牛肉・果物などは売上好調となった。日用品は好調に推移も3月度好調であった寝具関連は売上低迷となる。セブンパークアリオ柏の影響はほとんど受けていない。今後駅前マルエツ開店で激戦が予想される。	衣料品好調 肌着・婦人衣料好調 飲料好調 生鮮3品やや不調 野菜・豚肉・鶏肉不調 贅沢品好調 牛肉・果物好調 日用品好調 寝具関連不調 大型ショッピングセンター出店 競合店(スーパー)出店 競争激化	その他の各種商品小売業
	セブンパークアリオ柏の影響を鑑み、一時的な売上減を想定している。	大型ショッピングセンター開業 売上減少 先行き不安	その他の各種商品小売業
	4月下旬に柏駅前や沼南地区に大型店の動きがあるので、柏全体では良い話題だと思う。このオープン景気後も以前より上向きを継続させることが課題。	大型ショッピングセンター開業 競合店(スーパー)出店 競争激化	その他の各種商品小売業
	2016年の柏のスーパーマーケット競争は20年前の頃から最も激化している。TXが開通し5年間で柏の売り場面積が30%増えたと言われたが、その5年間で1年でその位のスピードで激化しているように感じる。今後更なる差別化が必要である。	競争激化 差別化 大型ショッピングセンター開業 競合店(スーパー)出店	各種食料品小売業
	熊本地震の影響で仕入れが出来ない材料があったが、代替で何とか対応。	熊本地震 仕入れへの影響	菓子・パン小売業
	最近の産地情勢は気温差が大きく、生育不足や出荷減少傾向から高値取引となっている。全国からの仕入を行っているため、熊本地震により集荷に影響して苦慮している部分がある。柏では大型店舗(アリオ)の出店により、競争激化が見込まれる。大型連休に向け卸売市場としてしっかりと需要と供給に対応し、消費者に安全・安心を届けたい。	気温の高低差 生育不足 出荷減少 高値取引 熊本地震 大型ショッピングセンター開業 競争激化 大型連休対応	食料・飲料卸売業

【平成28年4月業種別業界内トピックス】

サービス業	<p>【個人】北海道新幹線開業の盛り上がりは北陸ほどではない。北陸はいまでも勢いは衰えていない。NHK大河ドラマの影響で信州方面の問い合わせが増加。マイナス金利により旅行積み立ての申し込みが増加。【法人】熊本地震により九州方面の団体旅行は数ヶ月先も含め当面見直しに。秋の職場旅行の引き合いが活発化。</p>	<p>北海道新幹線開業 北海道新幹線不調 北陸新幹線 北陸地域人気 信州方面人気 マイナス金利 熊本地震 九州方面不調 秋の職場旅行受注好調</p>	<p>旅行業</p>
	<p>熊本地震の影響によりお客様が慎重になっている。金利が安くなっているため収益用に不動産を購入したいという需要が広がっている。</p>	<p>熊本地震 マイナス金利 不動産好調</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>そごうの撤退により柏駅前全体が不況と思われるのが不本意です。ほかの事業者は皆血のにじむ努力をして盛り上げようとしているのに。</p>	<p>駅前大型店撤退 先行き不安</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>TXの通勤時間帯の乗車人数が年々増加している。沿線の開発の進捗状況にTXの輸送能力が迅速に対応出来ていく事と、バス路線網の拡充が今後の地域発展に欠かすことのない要素と考えている。</p>	<p>つくばエクスプレス 通勤時間帯の利用者増加 つくばエクスプレス沿線の開発 バス路線の拡充</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>

## ◎熊本地震

各業種より、「熊本地震による影響は今のところ実感は無いが、徐々に耐震についての問い合わせが増えるかもしれない。」(一般土木建築工事業)、「災害があるとイベント等が減り、自粛ムードが広がるため、売上は必ず減少する傾向にある。」(印刷業)、「熊本地震の影響で仕入れが出来ない材料があったが、代替で何とか対応している。」(菓子・パン小売業)、「全国からの仕入を行っているため、熊本地震により集荷に影響して苦慮している部分がある。」(食料・飲料卸売業)、「熊本地震により九州方面の団体旅行は数ヶ月先も含め当面見直しになっている状況である。」(旅行業)、「熊本地震の影響により不動産の購入についてお客様が慎重になっている。」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

## ◎大型ショッピングセンター開業

卸小売業より、「大型ショッピングセンターの開業による影響は4月現在ではほとんど受けていない」(その他の各種商品小売業)、「大型店の出店によるの影響を鑑み、一時的な売上減を想定している。」(その他の各種商品小売業)、「柏全体で見れば良い話題だと思う。このオープン景気後も以前より上向きを継続させることが課題。」(その他の各種商品小売業)、「大型店の出店により、競争激化が見込まれる。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

## ◎競争激化

各業種より、「2016年の柏のスーパーマーケット競争は20年前の頃から最も激化している。今後更なる差別化が必要である。」(各種食料品小売業)、「今後柏駅前のスーパー開店で激戦が予想される。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

## 平成28年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.4に対し、「CCI-LOBO」が▲21.0で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.5に対し、「CCI-LOBO」が▲12.5で柏の方がマイナス幅が8.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、どちらの業種も10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.0に対し、「CCI-LOBO」が▲16.6で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.4に対し、「CCI-LOBO」が▲25.5で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、卸小売業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△7.3に対し、「CCI-LOBO」が△15.8で柏の方がプラス幅が8.5ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、製造業、サービス業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.3に対し、「CCI-LOBO」が▲9.1で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業とサービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

# 平成28年4月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.4	 △ 5.8	 ▲ 37.5	 ▲ 54.1	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 21.0	 ▲ 18.8	 ▲ 16.2	 ▲ 32.0	 ▲ 12.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.5	 ±0.0	 ▲ 43.7	 ▲ 33.3	 △ 9.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.5	 ▲ 16.0	 ▲ 4.9	 ▲ 28.7	 ▲ 3.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.0	 ±0.0	 ▲ 18.7	 ▲ 50.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.6	 ▲ 19.2	 ▲ 10.6	 ▲ 29.9	 ▲ 9.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.4	 ▲ 23.5	 ▲ 31.2	 ▲ 25.0	 ▲ 27.2
CCI-LOBO	 ▲ 25.5	 ▲ 20.9	 ▲ 15.0	 ▲ 36.3	 ▲ 28.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 7.3	 △ 11.7	 ▲ 12.5	 △ 16.6	 △ 9.0
CCI-LOBO	 △ 15.8	 △ 16.4	 △ 6.0	 △ 20.4	 △ 24.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 7.3	 △ 5.8	 ▲ 18.7	 ▲ 16.6	 △ 9.0
CCI-LOBO	 ▲ 9.1	 ▲ 6.2	 ▲ 6.0	 ▲ 18.0	 ▲ 7.5

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

## (4月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年4月21日～5月9日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数68件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲30.8	▲21.7	▲27.7	▲52.0	▲13.3
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
見通し	▲20.5	±0.0	▲18.7	▲41.6	▲9.0

「見通し」は今月の水準と比較した向う3ヶ月の先行き見通しD I

### 「柏市」の業況

業況D Iは横ばい推移。先行きは不透明感から慎重な見方が続く

4月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲26.4(前月水準▲25.6)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.8(同▲4.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0(同▲15.3)、製造業▲37.5(同▲44.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲5

4.1(同▲34.6)である。

【建設業】からは、「電気工事は現状維持で小規模のものが多い。お客様にはLED照明や省電力製品を提案している。」(電気工事業)、「新築工事に関しては中小と大手ハウスメーカーとの間で棟数に格差が出ている。」(その他の職別工事業)、「畳工事の一般のお客様からの注文が増加。畳縁なし畳の注文も増加している。畳素材の小物や畳縁バッグが好調。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高の影響により売上が減少。」(織物業)、「年度末駆け込みがあったため、売上高は前年同月と比べて減少したが、単月で見れば大きく貢献した。今年度は不透明感が相変わらず続いていくが、ようやく設備投資に動きが見えてきた。」(その他の機械・同部品製造業)、「3月入社の新社員・パートが仕事内容に慣れてきたため、残業時間の減少・生産性が上昇している。」(その他の金属製品製造業)、「仕事の内容を既成概念に囚われず、アナログとデジタルをマッチングさせ、マシナリ的な発想でクリアしていくという意識転換を行ったことにより、業況が好転し

た。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「4月中旬以降、気温上昇により衣料品が好調に推移、特に肌着と婦人衣料が伸長。食料品は飲料などが好調も、生鮮3品は昨年をやや下回る。基本となる野菜、豚、鶏肉が低迷で贅沢品の牛肉・果物などは売上好調となった。日用品は好調に推移も3月度好調であった寝具関連は売上低迷となった。」(その他の各種商品小売業)、「最近の産地情勢は気温差が大きく、生育不足や出荷減少傾向から高値取引となっている。大型連休に向け卸売市場としてしっかりと需要と供給に対応し、消費者に安全・安心を届けたい。」(食料・飲料卸売業、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要では、北海道新幹線開業の盛り上がりは北陸ほどではない。北陸新幹線はいまだ大河ドラマの影響で信州方面の問い合わせが増加している。マイナス金利により旅行積み立ての申し込みが増加。法人需要では秋の職場旅行の引き合いが活発化している。」(旅行業)、「金利が安くなっているため、収益用に不動産を購入したいという需要が広がっている。」(不動産管理

業)、「TXの通勤時間帯の乗車人数が年々増加している。沿線の開発の進捗状況にTXの輸送能力が迅速に対応出来ていく事と、バス路線網の拡充が今後の地域発展に欠かすことの出来ない要素と考えている。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

### 4月の景気キーワード ◎熊本地震

各業種より、「熊本地震による影響は今のところ実感は無いが、徐々に耐震についての問い合わせが増えるかもしれない。」(一般土木建築工事業)、「災害があるイベント等が減り、自粛ムードが広がるため、売上は必ず減少する傾向にある。」(印刷業)、「熊本地震の影響で仕入れが出来ない材料があったが、代替で何とか対応している。」(菓子・パン小売業)、「全国から仕入を行っているため、熊本地震により集荷に影響して苦慮している部分がある。」(食料・飲料卸売業)、「熊本地震により九州方面の団体旅行は数ヶ月先も含め当面見直しになっている状況である。」(旅行業)、「熊本地震の影響により不動産の購入についてお客様が慎重になってきている。」(不動産賃貸業などのコメントが寄せられた。

業)、「TXの通勤時間帯の乗車人数が年々増加している。沿線の開発の進捗状況にTXの輸送能力が迅速に対応出来ていく事と、バス路線網の拡充が今後の地域発展に欠かすことの出来ない要素と考えている。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

### ◎大型SC開業

卸小売業より、「大型SCの開業による影響は4月現在ではほとんど受けていない。」(その他の各種商品小売業)、「大型SCの出店による影響を鑑み、一時的な売上減を想定している。」(その他の各種商品小売業)、「柏全体で見れば良い話題だと思ふ。このオープン景気後も以前より向上きを継続させることが課題。」(その他の各種商品小売業、などのコメントが寄せられた。

### ◎出店ラッシュ(競争激化)

各業種より、「2016年の柏のスーパーマーケット競争は20年前の頃から最も激化している。今後更なる差別化が必要である。」(各種食料品小売業)、「今後柏駅前のスーパー開店で激戦が予想される。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

### CCI・LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲26.4に対し、「CCI・LOBO」が▲21.0で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (4月速報)

調査期間：平成28年4月14日～20日

調査対象：全国の423商工会議所が2952企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、引き続き一進一退、先行きも不透明感強く、慎重な見方崩れず

4月の全産業合計の業況DIは、▲21.0と、前月から+2.6ポイントの改善。ただし、今回の調査開始時点は熊本地震の発生前であることに留意が必要。業況DIは、堅調な観光需要や原材料・燃料価格の下落の恩恵、設備投資の持ち直しの動きに加え、「悪化」から「不変」への変化も押し上げ要因となった。金融市場の不安定な動きに対する懸念は和らぎつつあるものの、人件費上昇や受注機会の損失など人手不足の影響拡大、消費低迷の長期化、新興国経済の減速などから、中小企業の業況感には依然として鈍く、一進一退の状況が続いており、来月以降、熊本地震の影響を注視していく必要がある。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.1（今月比▲2.1ポイント）と、悪化を見込む。ゴールデンウィークに向けた観光需要拡大や設備投資の持ち直し、補正予算・今年度予算の早期執行などへの期待感が伺える一方で、熊本地震の影響の大きさや、円高によるイン

ンバンド需要の鈍化など消費の一段の悪化、新興国経済の減速の長期化を懸念する声が出ている。人手不足や価格転嫁の遅れなどの課題を抱える中、中小企業においては、先行きへの不透明感から慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「業界全体が人手不足となっている。新入社員の応募がないのに加えて、在職中の従業員の高齢化が深刻になっている」（一般工事業）、「国、県、市ともに公共工事の発注が減少している。補正予算の早期執行と発注の平準化を望む」（一般工事業）、「消費増税前に住宅・店舗の駆け込み需要が出てくる。マイナス金利ということもあり、用地を積極的に仕入れた」（建築工事業）

【製造業】「ゴールデンウィークに向けた引き合いが例年に比べ好調。お中元商戦に向けて在庫薄とならないよう生産を前倒しする」（調味料製造業）、「一両日中に具体的な対応は決まるが、熊本地震の影響により、取引先の

自動車メーカーの操業停止が見込まれる。当工場においても製造ラインを一部休止せざるを得ない見通し」（自動車・附属品）

【卸売業】「熊本地震により高速道路が通行できず、生花の入荷減、遅延などの影響が出ている」（農畜産水産物卸）、「急激な為替相場の変動により、輸入製品の原価管理や資金繰りに苦慮している。為替相場の安定を望む」（一般機械器具卸）、「販売先の要請で値下げしたが、仕入価格は一部しか変えられず、収益が悪化」（金属材料卸）

【小売業】「中国をはじめアジアからのインバンドの来店が多くなり、靴などの生活用品の購入が目立つ」（生活用品小売）、「気温の上昇とともに春物衣料の売上が伸びた」（総合スーパー）、「業況は依然慎重に見ているが、今月は宝飾品の店外催事を行ったところ、前年より売上が上がり、採算もよかった」（商店街）

【サービス業】「マイナス金利や設備投資補助金を活用しよう」と、このところIoTに絡んだ見積依頼が多くなっている。設備投資の起爆剤になっ

て欲しい」（ソフトウェア業）、「熊本地震直後から国内客を中心にキャンセルの連絡が入り始め、ゴールデンウィークまで空きが出ている。増加し始めていたインバンドにどの程度の影響が出るか不安」（旅館業）、「燃料費の下落により採算は引き続きとれているが、荷主からの値下げ圧力も強い。人手不足でもあり、採算に合わない依頼は断るようになっている」（運送業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲18.1	▲20.4	▲17.6	▲17.4	▲26.3	▲10.0
12月	▲17.2	▲15.4	▲15.5	▲17.2	▲30.8	▲7.7
1月	▲19.4	▲17.4	▲16.4	▲18.2	▲31.3	▲13.6
2月	▲22.8	▲18.2	▲23.8	▲19.7	▲34.0	▲15.5
3月	▲23.6	▲17.8	▲18.4	▲25.9	▲41.8	▲14.6
4月	▲21.0	▲18.8	▲16.2	▲31.3	▲32.0	▲12.7
見通し	▲23.1	▲24.1	▲20.9	▲31.7	▲30.8	▲13.9